

夏期工事の歩掛見直しを



一般社団法人日本橋梁・鋼構造物塗装技術協会
会長 榎谷幹義

新年あけましておめでとうございます。令和8年を迎えるにあたり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。平素は会員・賛助会員の皆様をはじめ、関係各位におかれましては、橋塗協の事業に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

橋塗協は昨年度、新しい取り組みとして東京都建設局と橋塗協とは、「災害時における横断歩道橋の点検等に関する協定」を締結いたしました。これは東京都内に災害が発生した場合は、東京都に本店・営業所がある会員が従事するものであります。従事する会員には、会長名で「災害協定締結会員証明書」を発行しています。一方で、東京都建設局からは総合評価方式の入札において、災害協定締結会員は社会性等の項目で評価を受けることになっています。このことから今後は各地区でも地域貢献の取り組みを推進していきたいと考えています。

さて、現在、人類にとって最大の危機は、地球の温暖化が後戻りできない段階に近づいているということです。近年は気温上昇により乾燥が進み、世界各地で大規模な森林火災が頻発し、大量の温室効果ガスが排出されて温暖化に拍車をかけています。気候変動によってアフリカやオーストラリアでは降水量が減少し、水源が確保できなくなった地域があり、加えて熱波による大規模な干ばつも発生しています。逆に東南アジア・南アジア・中央アジアなどでは、豪雨による洪水が頻発していて被害は甚大になっています。気候変動対策は待ったなしの状況にあります。昨年はアメリカ大統領や日本の首相をはじめとする世界のリーダーたちの顔ぶれも大きく変わりました。新しいリーダーたちには劇的で早急な気候変動対策を行う義務を果たしていただくことを期待します。

昨年の日本の夏は全国各地で過去最多の猛暑日日数となり、屋外での作業は過酷さを増しています。建設業界にとって夏期工事は災害級の猛暑の中での作業となり、大きなリスクになっています。このことから夏期工事においては休憩時間を延ばすなど、作業の歩掛を見直して頂くよう建設業界全体の課題として声を上げていく必要があると考えます。

ここ数年間、橋梁塗装においては PCB や鉛などの有害物質を含有している旧塗膜の剥離を伴う塗替工事が全国各地で盛んに発注されています。この旧塗膜の剥離工事は鉛中毒予防規則等関係法令を遵守することはもとより、状況に応じた適切なばく露防止対策を講じる必要があるため、剥離剤工法やサンドブラスト工法が選択されています。いずれの工法も隔離養生の中で全面マスク・ゴム手袋・タイベックスーツ等の完全防備での作業になるため、夏期工事は作業員の熱中症対策を含む安全管理に細心の注意をはらう必要があります。

会員の皆様におかれましては、無事故・無災害を達成されることと、今年一年が充実した明るい希望に満ちた年となることを祈念いたしまして、挨拶といたします。